

令和7年度全国学力・学習状況調査の結果について

1 調査の概要

(1) 実施日及び教科

令和7年4月17日（木） 国語、算数・数学、小学校理科
 令和7年4月14日（月）～17日（木）中学校理科

(2) 調査対象 小学校第6学年、中学校第3学年の全児童生徒

(3) 調査内容

- 教科に関する調査
 - 小学校調査…国語、算数及び理科
 - 中学校調査…国語、数学及び理科
- 児童生徒質問調査
- 学校質問調査

(4) 参加状況

○実施校数（公立）

学校種	実施校（校）
小学校	178
中学校	94
義務教育学校（前期課程）	9
義務教育学校（後期課程）	9
特別支援学級（小学部）	2
特別支援学級（中学部）	1

○集計対象児童生徒数（公立）

教科	児童数（人）	生徒数（人）
国語	9,633	8,776
算数・数学	9,631	8,796
理科	9,672	8,701

※集計対象児童生徒数・学校数は、調査の実施日に調査を実施した数。

2 教科に関する調査結果の概要

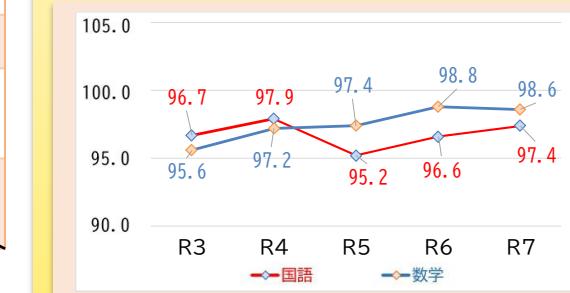
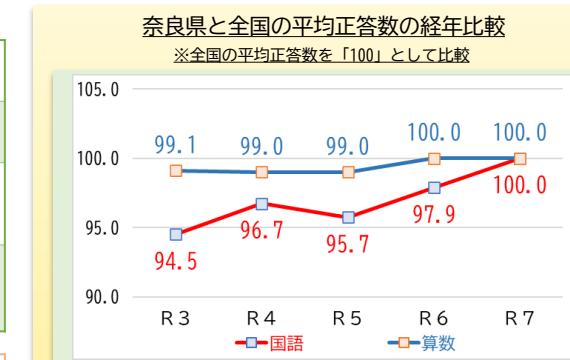
※上段は平均正答数、下段は平均正答率、中学校理科については、IRTスコア

小学校	国語		算数		理科	
	全国(公立)	奈良県(公立)	全国(公立)	奈良県(公立)	全国(公立)	奈良県(公立)
令和7年度	9.4/14問 66.8%	9.4/14問 67%	9.3/16問 58.0%	9.3/16問 58%	9.7/17問 57.1%	9.7/17問 57%
(参考) 令和6年度 理科は、令和4年度	9.5/14問 67.7%	9.3/14問 67%	10.1/16問 63.4%	10.1/16問 63%	10.8/17問 63.3%	10.3/17問 61%

中学校	国語		数学		理科	
	全国(公立)	奈良県(公立)	全国(公立)	奈良県(公立)	全国(公立)	奈良県(公立)
令和7年度	7.6/14問 54.3%	7.4/14問 53%	7.2/15問 48.3%	7.1/15問 47%	503	492
(参考) 令和6年度	8.7/15問 58.1%	8.4/15問 56%	8.4/16問 52.5%	8.3/16問 52%		

※平成29年度から、国からの各都道府県の平均正答率の提供が整数值となつたため、奈良県の平均正答率は整数值で示している。

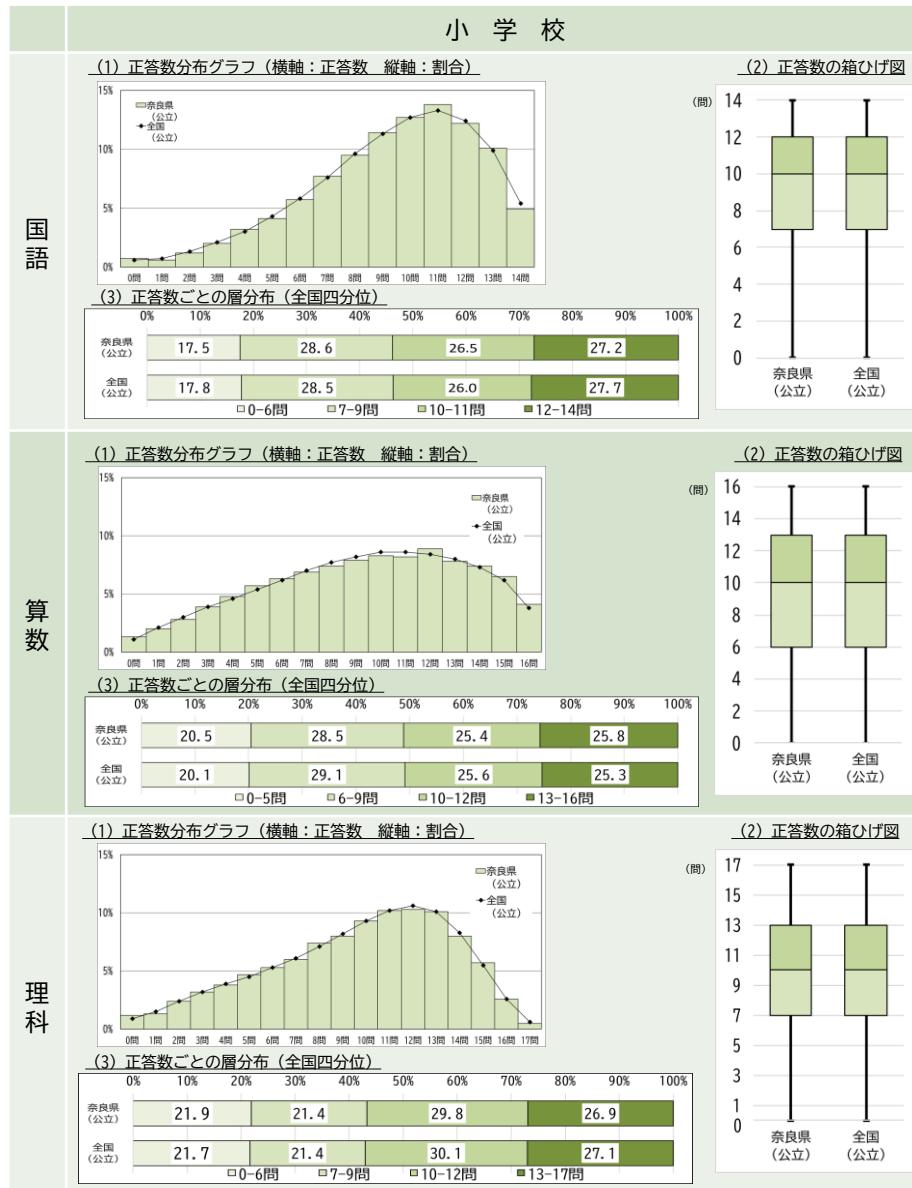
※IRTスコアとは、項目反応理論(IRT)に基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表したもの。



小学校…令和7年度調査において、国語、算数、理科の平均正答数は、奈良県と全国の間で大きな差はみられません。また、令和3年度から令和7年度までの過去5回の国語、算数の平均正答数を経年で比較すると、国語、算数とともに全国平均程度となってきています。

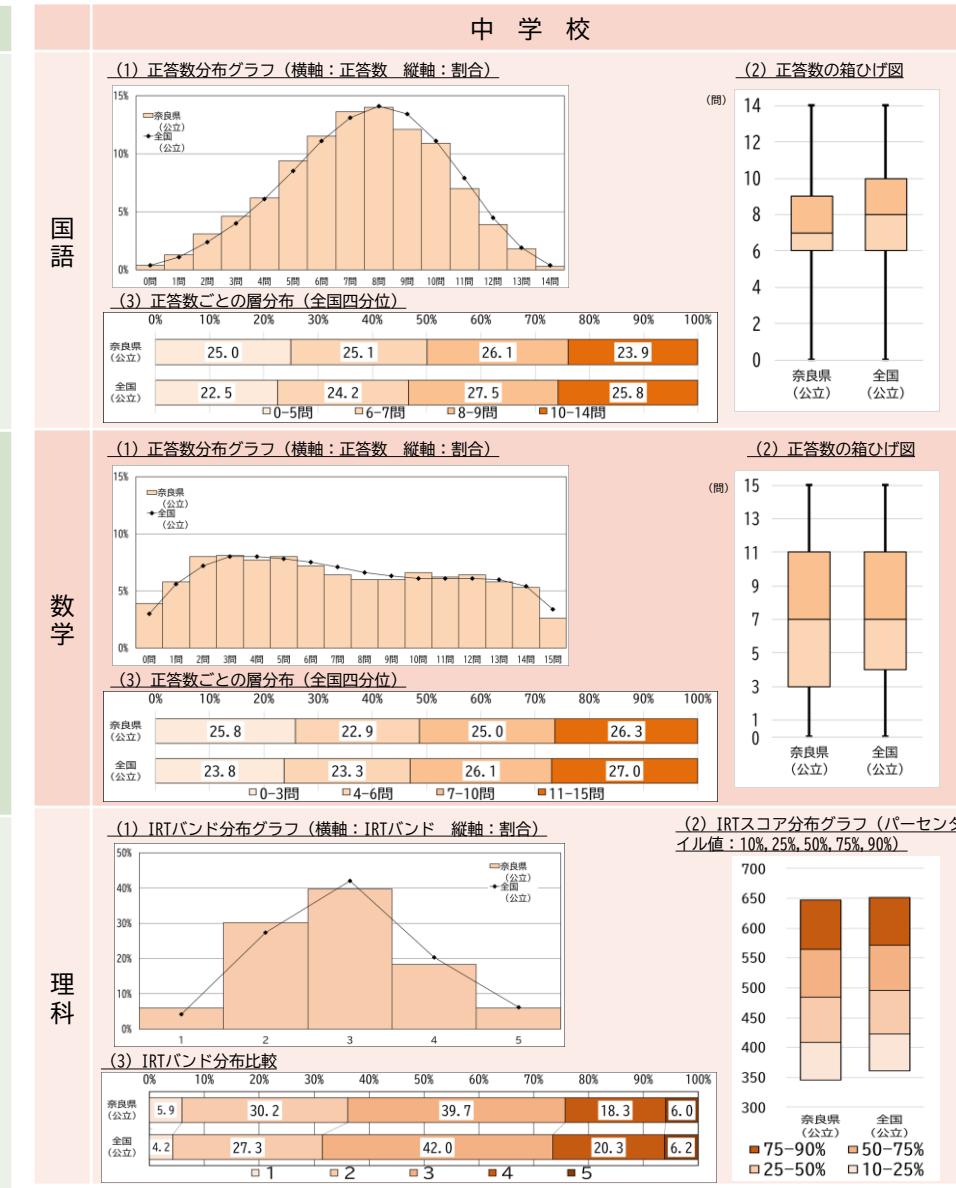
中学校…令和7年度調査において、国語、数学の平均正答数及び理科のIRTスコアは、全国をそれぞれやや下回っています。令和3年度から令和7年度までの過去5回の国語、数学の平均正答数を経年で比較すると、国語、数学とともに全国との差が縮まってきています。

3 各教科調査の結果について



○小学校国語、小学校算数、小学校理科ともに、奈良県（公立）と全国（公立）の正答数の分布に大きな差は見られません。

○各児童の正答数の散らばりを表した箱ひげ図や、正答数を4つの層に分け、それぞれの人数の比率を示した層分布のグラフを比較しても全国（公立）と大きな差は見られません。



○中学校国語は、正答が7問以下の生徒の割合が、中学校数学は正答が6問以下の生徒の割合が、それぞれ全国（公立）と比べ、大きい傾向が見られます。

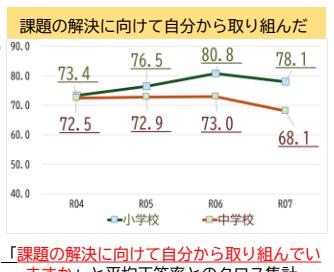
○中学校理科では、IRTスコアを1~5の5段階に区切ったIRTバンドの2及び1に属する生徒の割合が、全国（公立）と比べ、大きい傾向が見られます。

令和7年度全国学力・学習状況調査の結果について

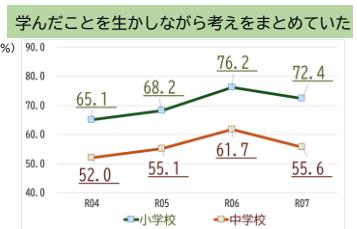
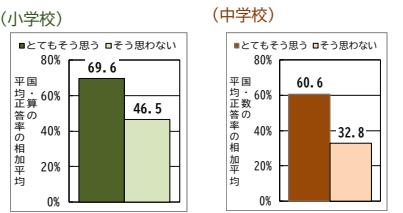
4 児童生徒質問調査の結果について①

(1) 学習指導要領の趣旨を踏まえた教育活動への児童生徒の取組状況について

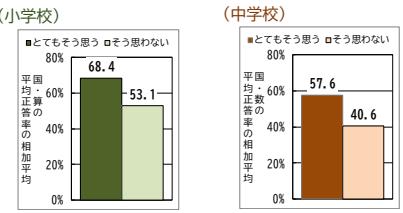
主体的・対話的で深い学びに取り組んだと考える（とてもそう思う、そう思う）児童生徒の割合の経年変化



「課題の解決に向けて自分から取り組んでいますか」と平均正答率とのクロス集計



「学んだことを生かしながら考えをまとめていますか」と平均正答率とのクロス集計



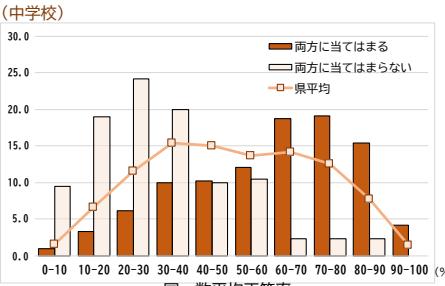
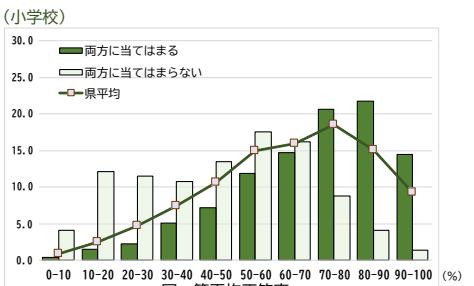
○約8割の児童、約7割の生徒が課題の解決に向けて自分から取り組んだと考えています。

○令和6年度と比べて、肯定的に回答した児童生徒の割合が減少しています。

○主体的・対話的で深い学びに取り組んだと考える児童生徒ほど、各教科の平均正答率（相加平均）が高い傾向が見られます。

課題の解決に向け自分で取り組み、学んだことを生かしながら考えをまとめる児童生徒の教科調査の結果

「課題の解決に向け自分で取り組んでる」と「学んだことを生かしながら考えをまとめる」の両方に当てはまる又は、両方に当てはまらないと回答した児童生徒の平均正答率（相加平均）の分布



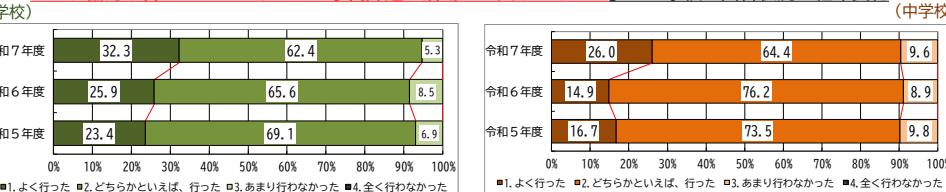
○小・中学校ともに両方に当てはまると回答した児童生徒の平均正答率の分布が右に偏り、両方に当てはまらないと回答した児童生徒との平均正答率の分布が左に偏る結果が見られます。

○特に中学校においてその傾向が強く見られます。

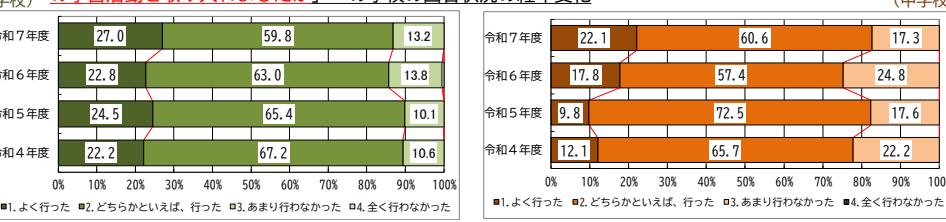
主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の必要性

(2) 学習指導要領の趣旨を踏まえた教育活動への学校の取組状況について

「児童生徒が、それぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫しましたか」への学校の回答状況の経年変化



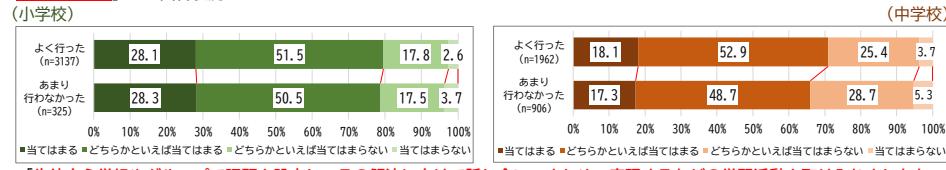
「児童生徒が自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れましたか」への学校の回答状況の経年変化



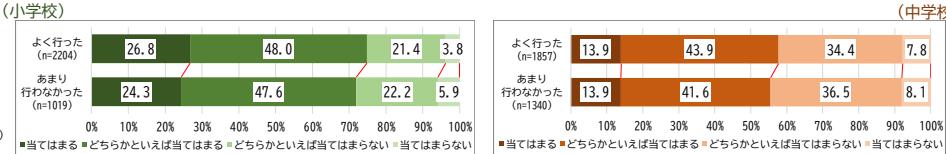
○昨年度までと同様、約9割の小学校、約8割の中学校が主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に取り組んでいると回答しています。

(3) 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に取り組む学校と児童生徒の関係について

「他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫しましたか」という質問項目に「よく行った」「あまり行わなかった」と回答した学校に在籍している児童生徒の「課題の解決に向けて自分から取り組んでる」への回答状況



「生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れましたか」という質問項目に「よく行った」「あまり行わなかった」と回答した学校の児童生徒の「学んだことを生かしながら考えをまとめている」への回答状況



○中学校においては、授業改善に資する課題や工夫された学習活動をよく行った学校では、「課題の解決に向けて自分から取り組んでる」「学んだことを生かしながら考えをまとめている」に対する肯定的回応の割合がやや高い傾向が見られます。

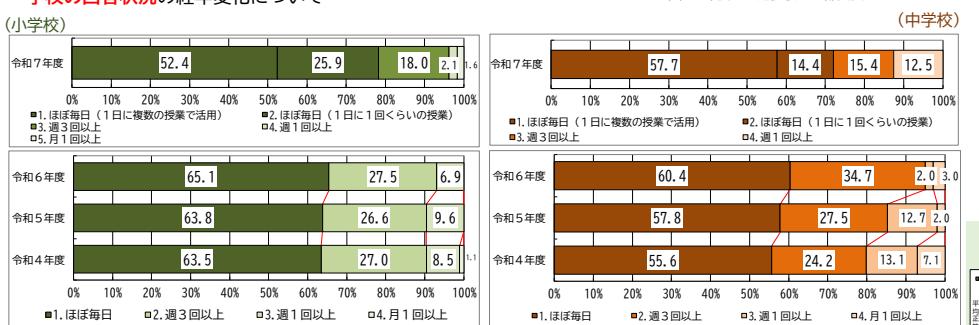
学習者である児童生徒の実感を伴った授業改善の必要性

令和7年度全国学力・学習状況調査の結果について

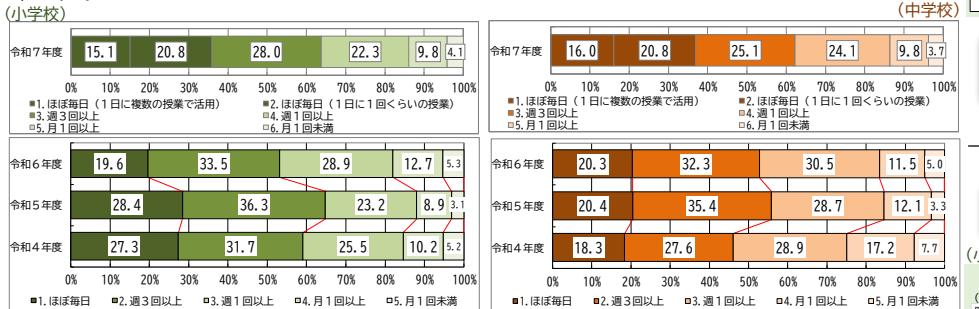
4 児童生徒質問調査の結果について②

(1) ICTを活用した学習状況について

「児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか」に対する学校の回答状況の経年変化について
令和7年度から選択肢が一部変更されています。



「PC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度使用しましたか」に対する児童生徒の回答状況の経年変化
令和7年度から選択肢が一部変更されています。



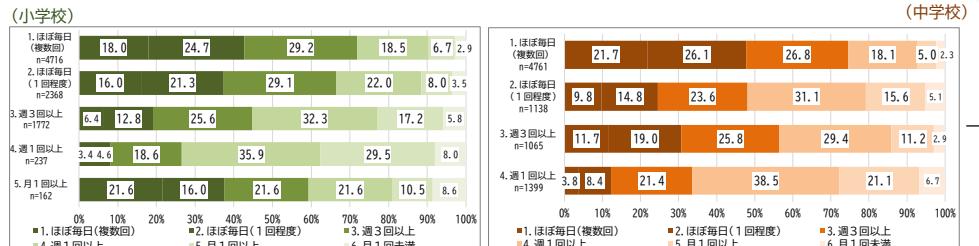
○約8割の小学校、約7割の中学校が、「ほぼ毎日」ICT機器を授業で活用したと回答しています。

○約4割の児童生徒が、「ほぼ毎日」ICT機器を授業で使用したと回答しています。

○各学校及び児童生徒ともに、ICT機器の活用・使用頻度は高まっています。

(2) ICTを活用した学習に取り組む学校と児童生徒の関係について

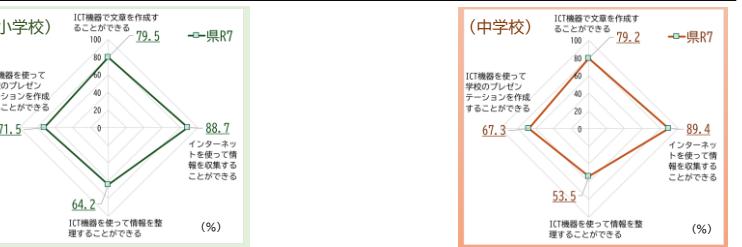
「児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか」という質問に対する学校の回答と、「PC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度使用しましたか」という質問に対する児童生徒のクロス集計



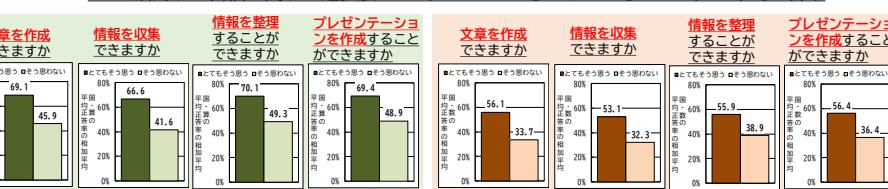
○小・中学校ともに、ICT機器を授業で活用する頻度が高い学校ほど、児童生徒はICT機器を使用する頻度が高いと回答する傾向が見られます。

(3) ICTを活用する自信について

ICTを活用する自信に関する質問項目に対する肯定的回答（とてもそう思う、思う）の割合



ICTを活用する自信に関する選択肢ごとの（とてもそう思う、思う）の平均正答率



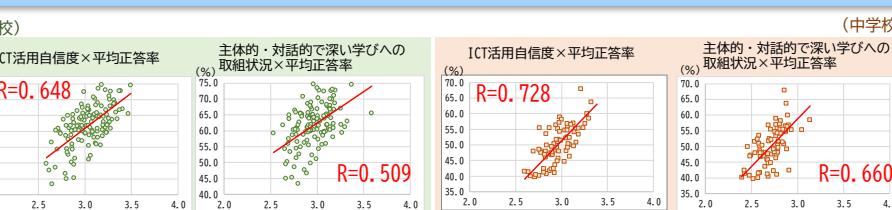
○約8割の児童生徒がICT機器で文章を作成することができる、約9割の児童生徒がインターネットを使って情報を収集することができると考えています。

○ICT機器を活用することができると考えている児童生徒ほど、各教科の正答率が高い傾向が見られます。

(4) デジタル学習基盤を活用したこれからの学びについて

学校毎の児童生徒のICT活用自信度と主体的・対話的で深い学びへの取組状況の相関について

ICT活用自信度…「文書作成」「情報収集」「情報整理」「プレゼン作成」各項目の期待値の平均
主体的・対話的で深い学びへの取組状況…「課題に向取り組んだ」「考え方をまとめて活動を行った」各項目への期待値の平均
期待値…各項目の回答を「当たるまる等」=4点、「どちらかといえば、当たるまる等」=3点、「どちらかといえば、当たるまらない等」=2点、「当たるまらない等」=1点として算出



○各学校の児童生徒のICT活用自信度、主体的・対話的で深い学びへの取組状況と平均正答率の間には、正の相関関係が見られます。

○特に小・中学校ともに、ICT活用自信度との間により強い相関関係が見られます。

デジタル学習基盤の活用など、不断の授業改善による
学習者主体の学びの一層の推進

(5) 今後の取組について

「少人数・異学年集団における指導の在り方実践研究」

主体的に学習を調整する児童生徒の育成に資する指導の在り方についての調査・研究を実施

「授業力向上指導委員による授業研究会の開催」

今年度の教科調査の結果を踏まえ、授業改善を図る際の参考となるよう、指導委員による公開授業を実施

「県内各地域・学校における実践事例の収集」

調査結果から見られる課題改善に向けて取り組んだ地域や学校の事例を収集し、県域に周知